



会員数 22人

北九州プロバスクラブ月報

つながり

No. 209

令和5年11月号

2023. 11. 21

10月例会卓話

「地域に貢献する北九州空港」

講師 北九州市港湾空港局空港企画部

路線誘致・集客営業部長 田代 昇三氏

最初にまず「北九州空港は北九州の成長エンジンだということを確信しております、一つはここに人の流れ貨物の流れの拠点を作っていくという試みを、将来構想を含め説明していきます」と切り出した。



空港の特徴として①地理的に優位、日本の中では西に位置していますが、北九州を中心にアジアをみれば、東アジアに一番近い便利な位置です②24時間使える空港、沖縄を除けば、ここだけ③海上空港であるため、海運とあわせた貨物輸送が可能です、と紹介。7年前の旧空港時代には国際線はなかったが、県と一緒に誘致を続け、現在は運休中を含め国内線が2路線、国際線は4路線あり、国内外4社の航空会社が利用しているという。さらに大型機の長距離運航が可能にできるように滑走路の500m延長が決まり、4年後には福岡空港より200m長い3000m滑走路が出来ますという。

この後、旅客数、貨物取扱量の推移などを説明、コロナ禍前の平成30年度が旅客数のピークで、外国人入国者が全国9位、航空貨物では令和4年度の国際貨物が全国6位と貢献していたのは意外だった。しかし、北九州空港はビジネス客が主で、コロナ禍以降も出張が減ったり、在宅勤務などで需要が伸び悩んでいるのが現状、また、福岡空港と比べるとアクセスの悪さが目立ち、福岡は地下鉄で空港まで行けるが、北九州は小倉駅からバスで行くので、事前にバスの時間を調べる必要があるのが悩みだという。

最近、羽田を出発した JAL が福岡空港の門限に間に合わず、羽田に引き返すことがあった、就任直後だった武内市長に呼ばれ「なぜ北九州空港に着陸できなかったのか、できないことをやるのが君らの仕事」と叱責されました。市にはそんな権限がありません。そこで民間のバス会社、ホテル業者など130社の協力を得て、緊急連絡から3時間以内にバス、ホテルなどが確保できるような体制を作りました、という。しかし、国際線は問題が多すぎてまだ対応できていないともいう。

個人的な話ですが、昨年10月に福島空港直行便で、かねてから行きたかった会津若松と大内宿などを見物しました、福島ではスターフライヤー初着陸ということで歓迎セレモニーもあり、非常に印象深い旅になりました。ツアー参加は20名足らずでしたが、こうした積み重ねが定期便就航につながるのではと期待します。まだまだ、24時間空港のメリットを生かし切れていない、税関や保安要員など人的問題もあるでしょうが、今後の発展を願っています。(安高)

10月例会報告

司会は松本例会委員長、「これまで例会司会を担当してきた幹事長の中山会員が、体調不良で9月に退会したため、急遽私が例会の司会を務めます」とその理由を説明した。お誕生会は吉田信雄会員と洞会員のお二人が対象。吉田さんは妹さんからお祝いの電話があり、互いに年齢をごまかし言い合ったことを面白おかしく伝えた。卓話は「地域に貢献する北九州空港」の題目で、北九州市港湾空港局企画部路線誘致・集客営業部の田代昇三部長が講演、配布済の詳細な資料の内容を説明しながら、滑走路延長計画、なぜ、延長するのか、旅客数、取り扱い荷物の推移などを示した。

例会議題では全日本の地区理事を務める古賀会員が「来年8月に青森県五所川原で開催される全国大会があり、その参加受付締め切りが迫ってきております。できるだけ参加を」と呼びかけ、内藤広報委員長からは「例年11月にお渡しする Link24 号の組み換えが生じたため、配布を1か月延長して12月にお渡しします」と報告、了承された。(安高)

臨時総会報告

10月例会を目前にして、健康上の理由や運営方法の食い違いなどで三役が揃って辞任する事態が発生した。これにより緊急に選考委員会を発足させる必要がおき、3委員会委員長と役員会代表1名の4人で選考委員会を開いて新人事を選考することとなった。

臨時総会においては提案における確認事項の精査をし、新三役選出の経過や兼任や事務局長空席が避けられなかったこと等の説明がなされ、新役員を発表。会長に前々会長の植田佐世子会員、副会長に内藤康子会員を選ぶなど原案どおり了承された。(安高)

北九州プロバスクラブの新体制は次の通り。16期残任期間(令和5年度～6年度) 写真左から



▽幹事長 松本忠(例会委員長兼務)
▽事務局次長 遠藤信子 ▽会長 植田佐世子
▽副会長 内藤康子(広報委員長兼務)
▽会計 藤原智子 ▽監事 橋本峰子、眞鍋雄一

他に ▽交流委員長 吉田秀子(前期)柴村美和子(後期) ▽事務局長 空席(以上敬称略)

委員会報告

交流委員会

11月14日 9名出席
湖月堂で17時30分から開催。
11月1日の臼杵ふぐバスツアー(25名参加)の報告。参加された人や料理はもちろん、とても楽しかったと好評でした。

令和6年1月の新年会について。吉田委員長より交流委員会を実施することになった経緯の説明があり、新年会企画のアイデアを出し合った。外部に依頼することやカラオケの会、歌をうたう会の出演、交流委員会全員で楽しい出し物をやる等意見が多数でした。とにかく楽しく盛り上げようということで、決定は12月の交流委員会へ持ち越しました。(吉田秀子)

広報委員会

11月3日 9名出席
祝日でにぎやかなテトラホテル北九州で午後0時30分から開催。昼食後まず、「つながり12月号」の編集会議を行い、記事の担当者や写真等の確認をしました。続いて11月号の校正に移り、記事内容やレイアウト変更等を話し合いました。「Link24号」は12月発行変更に伴う進捗状況と、2校の担当者人選も行い、ホームページや退会者の同好会への参加について委員としての意見を出し合って会議を終えました。(内藤)

例会委員会

11月7日 7名出席
12月例会卓話は北九州漫画ミュージアム館長に「北九州と漫画文化」(仮)をテーマに講師になっていただけないか、正副委員長がお願いに行く予定です。また、来年2月例会卓話は山下静江会員による会員卓話と決まりました。お話のテーマは12月の例会委員会で決定します。なお、例会を楽しく和やかな雰囲気にするため、例会冒頭で毎回季節の歌を、全員で歌ってはどうかとの提案があり、各委員会で会員の意見を聞いた上で結論を出すことにしました。(松本)

臼杵のふぐと歴史のバスツアー

秋日和の最高の天気恵まれて、25名の同好者で美味しいふぐ懐石を堪能して来ました。誰もが幸せな笑顔に溢れ、お喋りにも拍車が掛かり、健康で美味しいものをいただく共有関係で、時間の経過を忘れさせられました。好奇心と食への関心で、遠方まで出掛ける自分の気力に驚くばかりです。食後は臼杵石仏の観光で、凝灰岩の岩壁に刻まれた石仏群で、私は20数年前に母が健在の頃に、姉妹家族と皆



で旅行の途中に寄った記憶がありますが、その頃は国宝



に指定された文化遺産としてブームでした。

石仏の見学には健脚が必要とされますので、今回は良い体験が出来たと喜んでます。この度のバスツアーをお世話していただいた、交流委員会の方々お疲れ様でした。有難うございました。(藤兼)



スマホのアラームを午前 6 時にセットしているが、それで起きたことはない。聞き耳を下に寝ているから無理もない。だけど自然と目覚める。すぐに起きあがらず、ベッドで今日一日のスケジュールを考える。スカートにしようか、パンツにしようか、そんな時間が独り者には至福の時間である。朝ドラに間に合うように朝食の準備、新聞を拾い読み、テレビ番組を確認して、出かける用意を始める。これまでは 15 分で済んでいたのに、今は 30 分かかかる。年齢を感じるこの頃である。9 時のラジオ体操に参加。その後が楽しいお茶とおしゃべり。今日の話は万能調理器で焼くのも、煮るのも OK とか!! レンジもトースターもいらないとのことであるが、使いこなせるかな…、そんな話題が続きます。それから洋裁教室、クラフト教室、お花に気功と、楽しく、元気をモットーに私の一日を過ごしている。

～ 同好会活動報告～

日本酒の会

10月 31 日午後 6 時から、守恒の NAO で 9 名参加の開催。恒例により、マスターが推薦する青森、田酒の蔵の大吟醸“善知鳥(うとう)”で乾杯。これは、きらきらと華やかで本当に美味であった。マダム的心づくしの料理をいただきながら、次は秋田の花邑(はなむら)純米吟醸、辛口で少し酸味があった。3 番目は松本市の大信州、北アルプスの雪解け水を使って醸造された逸品である。4 番目は新潟の豪雪地帯で有名な南魚沼、青木酒造の山田錦を使った特別純米酒“鶴齢”。いずれも銘酒中の銘酒ばかり、料理もおいしくて至福の時を過ごすことができました。(藤原)

歴史文学講座

火野葦平資料の会会長坂口博先生による火野葦平 7 回シリーズの最終回を 10 月 24 日、松本清張記念館で開いた。参加したのは 8 名(うちゲストは 2 名)だった。

今回は、小倉城下で質屋を営む高木家 3 代、80 年間の軍隊物語を描いた「陸軍」がテーマ。講座の最初に木下恵介監督、笠智衆、杉村春子、田中絹代ら出演で昭和 19 年に映画化された「陸軍」の冒頭 15 分間をパソコンで鑑賞した。幕末の動乱で小倉城が炎上するシーンで、講座は福岡連隊が福岡市内を大行進するラストシーン 15 分間を上映して締めくくられた。その間、葦平の戦争観などが語られた。



次回は 12 月 26 日(第 4 火曜)午前 10 時～市立文学館で。会場を変更しているので注意を。テーマは「小倉郷土会」。(松本)

ワインを楽しむ会

やっと秋らしい穏やかな日が続き、街を行く人々も活気を取り戻した感が致します。第 139 回を 10 月 22 日 18 時から「リップ」において開催することで、人数の調整を前日まで行い総勢 9 名の参加者で開催することになっていました。

ところが当日の朝 8 時前、マスターからの電話です。マスターの体調不良で救急車を呼んでいるということでした。メニューの作成も終わっていましたが、参加者にライン、ショートメールで連絡し、次回開催は 12 月、日時は決定次第連絡する旨を伝えました。

10 月のメニューは、オードブル＝お肉のパテとケーキサレ、魚料理＝にべのポアレ、肉料理＝ポークの椎茸包み焼の予定でした。(古賀)



「継続は心を穏やかにする」

植田佐世子

教師にはなりたくなかったのに、中・高校の先生になり、短大に勤めるようになった。教えていると「心がやせる」身体は痩せないが。そして「意固地にもなる」ことにも気がついた。在職中に母から「私はあなたの生徒じゃないし、先生の母親にもなりたくない」と言われ、家でも先生をしていたことに気づかされた。自分は形のない音楽を教える仕事なので、「形」が残るモノづくりを習うことに決めたという。

まず洋裁を始めたが、一通り習うとこんなものかと飽いた。次はスタンドグラスで、センスがなくて壁に直ぐぶつかった。次の油絵は、先生にため息が出るほど普通だと言われ……どれも続けられなかった。が55歳の時、刺繍に出会った。センスのいるフランス刺繍ではなく良い図案さえあれば誰でも出来るクロスステッチを選んだ。おしゃべりしながら完成させられる刺繍でストレスも発散、至福の時間がそこにあった。



それから、プロバスに入って吉田秀子さんのパッチワークを「すごいなあ」、柴村さんの着物をリサイクルした洋服に感嘆！した。刺繍は2～3ヶ月で出来るものもあれば、大きな作品は1年7か月も掛かるという。今取り掛かって1か月目の作品”りんご”を見せながら、後2週間で出来あがると嬉しそう。とにかく続ければ「完成」があり、終わりがあり、次に作る作品が待っている。それが「心をおだやかにしてくれている」ことに気づいたそうだ。「継続は心を穏やかにしてくれる」だからこれからも続けて行きます。皆さんもどうぞ続けられるものをお持ちくださいと結ばれた。わたしも若い頃やっていたレース編みに挑戦してみたくなりました。(内藤)



10月のお誕生日おめでとうございます

- ☆
- ☆ 吉田信雄さん(10月11日)
- ☆ 洞ミヨ子さん(10月24日)

トピックス

歌をうたう会 ～文化祭に参加して～

会が発足して、プロバスクラブ以外で発表の場を得たのは初めてでした。西小倉市民センターに10月21日10時半集合、少し緊張感もありましたが、お天気にも励まされて楽しく歌うことが出来ました。

曲のトップは「冬景色」でしめやかに、「われは海の子」は元気よく、「荒城の月」は朗々と笑顔で、との植田先生のアドバイスを忘れずに・・・美しいソロも織り込んで心を込めて合唱しました。その後はバザーの焼肉ドックや焼きそばを食べながら、賑やかに反省会。またこのような機会があれば歌いましょうと笑顔で解散しました。(橋本)

ありがとうBOXメッセージ10月分(入会順、敬称略)

- ★卓話・田代晃三講師より謝礼と交通費の寄付
- ★感謝(遠藤)
- ★通院・薬・しっかりメンテ。がんばれ!!(大川)
- ★旅行シーズンになりました。まずは、臼杵のフグと歴史の旅バスツアー(古賀)
- ★(松本)
- ★(植田)
- ★(眞鍋)
- ★元気ですけど、お脳の方が頼りなくなりました(洞)
- ★フグツアー楽しみです(安高)
- ★やっと秋らしく感じ、これから風邪予防です(橋本)
- ★(安河内)
- ★おだやかで、楽しいクラブでありますように(柴村)
- ★秋真っ盛り、充実した日々を楽しみましょう(大石)
- ★北九州空港の更なる発展を祈ります(山下静江)
- ★10月のお誕生日の方、おめでとうございます(藤兼)



収支報告	9月末残高	124,032円
	10月分	6,200円
	謝礼寄付	15,000円
	植樹	▼40,000円
	10月末残高	105,232円